

カナダで学んだこと

旧渥美町 ○ 9月21日水 28日水



旧渥美町の中学生16名と引率者2名の計18名の皆さんが、9月21日(水)～28日(水)の8日間、カナダ・バンクーバー市を訪問しました。ホームステイや中学校(サーレー地区)への体験入学、高齢者福祉施設訪問などで現地の人々と交流しました。

ここでは、帰国後の報告内容の一部をご紹介します。(敬称略) ●指導課 23局3679

団長 福江中学校校長 ○ 宮川敏彦 みやがわとしひこ

私たちが訪れたカナダ・サーレー市は、人口増加をするバンクーバーのベツトタウン。9月といえば、カナダは新入生を迎え、新しい年度のはじまりの時期でもあります。ランチルームでは、月に一度しかない学活の時間を使って学年集会が行われ、学年の心構えや規律などの話がされ、オリエンテーション合宿もある。インド、中国、韓国、多民族国家のカナダ。ものの考え方、文化、生活習慣が全く違う生徒たちに、まずは人との接し方、協力して一つのことをする喜び、ルールを教えることは日本以上に必要なことかもしれません。

引率 福江中学校教諭 ○ 河合則江 かわい のりえ

カナダ入国数時間後に、「Excuse me Do you know where is the market?」(市場はどこですか?)と道を聞かれた。「人種のモザイク」と言われているカナダ。その中でもバンクーバーは、世界一住みたい都市に選ばれており、多様な人種・文化が入り混じり共存している。「カナダ人」「外国人」という区別がない。学校でも街でも、どの国の人間かという区別はなくカナダにいる人はみなカナダの人として受け入れているということを感じた。

泉中3年 ○ 岩澤優作 いわさわ ゆうさく

最初、外国の人の家に数日間滞在することに多少の不安もありましたが、迎えてくれた家族の温かさや優しさに触れ、言葉の壁も互いに理解しようとして、困ることもありませんでした。英語力が伸びたかどうか分かりませ

んが、自分にとって、この経験は忘れることのできない思い出となりました。この機会を与えてくださった教育委員会の方々本当に感謝しています。ありがとうございました。

泉中3年 ○ 渡辺敬介 わたなべ けいすけ

僕がこの派遣で必要だと思ったことは相手のことを理解することです。言葉が通じない所で生活するのはとても不安でした。しかし、すぐにジェスチャーを使って克服できました。が、相手の話すことを理解できなくて、用事を頼まれても、迷惑をかけてしまいました。これが僕の失敗であり、今後の課題です。

泉中3年 ○ 伊藤弘子 いとう ひろこ

私の印象に残ったことは、三日目にあったキャンプです。みんな、おそろいの服を着て授業を受けました。二時間の授業の時、私が理解できるように、女の子が、よりわかりやすいジェスチャーを使って、B紙の書き方をずっと教えてくれました。とても親切な人です。会話も弾みました。

そこで学んだことは、親切にされたら、ありがたうと言うことです。当たり前のことだけど、相手に気持ちが伝わりません。短い言葉だけれど、そこには感謝の気持ちがたくさん詰まっています。

泉中3年 ○ 平井奈々 ひらい なな

私が海外派遣に行って一番印象に残っていることは、先住民族の方達との交流です。初めて会ったとき、先住民族

の方は、伝統的な服装をしていました。現代の私たちの服装とは違い、赤や青の布に、木や羽がついていました。昼食後には、ダンスも教えてもらいました。私は、先住民族の方をすごく尊敬しました。自分たちの民族に対する強い誇りを感じたからです。私は、日本にもそんな感情を持ち込みたいと思いました。

伊良湖岬中3年 ○ 藤井聡 ふじい さとし

僕がカナダへ行って、一番印象に残っているのは、ホストファミリーと仲良くなることができたことです。最初のうちは、自分から積極的に話しかけることができず、あまり会話することができませんでした。でも、積極的に話しかけていたら、心を開いてくれ、むこうからも話しかけてくれました。たいへん嬉しかったです。

積極性というのは、大切だと思いました。これからの生活に積極性を生かしていきたいです。

伊良湖岬中3年 ○ 小久保奈美 こくぼ なみ

私が訪問したカナダの学校や町では、いろいろな人種の人たちがいました。自分の地域ではあまり経験がないので、すごく驚きました。カナダの人たちは、私たち日本人が歩いていても、まったく珍しそうに見ることはありませんでした。これが日本とカナダの違いの1つだと思いました。

今、世界ではいろいろな民族がお互いに助け合っていくことが大切だと思います。そう考えると、カナダでは多民族文化がうまく共存しています。カナダ